

## 隊員間の連携の大切さ

尾形 美沙子

(17-1, セネガル, 小学校教諭, 藤沢市立湘南台小学校)

---

尾形と申します。よろしく申し上げます。藤沢市で6年間勤務した後に、現職参加制度でセネガルに小学校教諭ということで行って参りました。それで今も（藤沢）市の小学校に（5）年生の担任として勤めています。

今日は割と突然のお話だったのでほとんどあまり準備も出来ず、大して役に立つ話ができるかわからないのですが、これから行かれる先生方によって少しでも、ほんのちよっとでも役に立てればと思ってやって参りました。話も下手だし面白く話せるかはわからないのですが、他の先生の発表もあって非常に恐縮なのですが、よろしく申し上げます。

まず、私の任国は、西アフリカの最西端にあるセネガル共和国というところで、今日さっき人から聞いた話ですがパリ・ダカールラリーが今年中止になったということで、そのパリダカのゴールであるダカールが首都である国なんですけども、2002年にフランスを破ったというとおわかりの方もいらっしゃるかと思いますが、そのセネガルという国に行きました。国はイスラム教の国で、公用語はフランス語ですが、ウォロフ語という現地の言葉が一番よく通じます。90%以上の方が話すことが出来て、私なども小学校教諭としてですが、普段の生活も含めると、フランス語とウォロフ語両方を使っていたかな、という状態でした。国はもちろん一年中暑くて、普段雨が降る時期と降らない時期があるかなという感じで、降らない時期の方が断然多くて、その時期に学校があります。雨の降るときは、皆さん（畑）をやりますので、学校はお休みになるということで、長いバカンスの間が雨季で、それ以外の間は乾季ということになります。

私への要請は、小学校教諭ではあるんですけど、要請内容が、環境教育だったんですね。環境教育というのは、日本の中でも総合とかでやられる先生はいらっしゃると思うのですが教科として成り立っているわけではなく、セネガルでもまったく同じことで、教科の中に位置づけられないものなので、それを図工や音楽や体育といった情操教育の中でなんとかやりなさいといったような感じです。それで私の方は大変戸惑ってしまして、訓練中から何を準備したらいいのかよくわからず、環境という言葉にすごく押し潰されそうになっていました。それで実際派遣されてみましてまた更に驚いたのが、その要請をもらっているのは私一人で、セネガルの中で他に環境という名前の要請をもらっている人はいなかったんです。私は職種は小学校教諭なんですけど、環境教育ということにかなりプレッシャーを感じながら、最初の半年あまり何も出来ずにいたなと思っています。それが変わるきっかけになったのは、隊員同士の連携で

した。それで今回、隊員同士の連携についてお話させて頂こうかなと思いました。その連携活動は、ちょうど今日、それをセネガルで始めてくださった隊員の方がここにいらっしやっているんですけど本当に、その方々の始めてくださった、教員養成校での教員を対象にしたセミナーというもので、それは隊員同士で連携して行う活動なんですね。それをきっかけに隊員同士で集まって悩みを言い合ったりとか、それからどんなことを実際学校で具体的に教えているのかということと交換する機会にもなって、それをきっかけに自分の活動も前進したと思っています。結局私は、環境教育は捨てたというか、おいて活動することに決めたわけです。それは他の小学校教員の隊員がセネガルで、ほぼ全員情操教育の普及という要請で活動していたからです。それで私が彼らとともに活動することになって、全く見えなかったものが、あ、前が見えたなという気持ちで、とても気持ちも軽くなったし、悩みも話せるし、同じ問題を抱えている隊員同士手を取り合って前に進めるな、というふうにすごく心強くて、それから先は1年間でした。

それでセネガルの学校の様子なんですけど8時から朝が始まって、10時半まで、うちの学校の場合だったかもしれないんですけど、ぶっ通しで子ども達は教室の中に閉じ込められています。それで30分の休憩があって11時から1時まで、というのが1日の日課です。一週間5日のうちの火曜日と木曜日だけ、午後2時間の授業があります。それで、小学校のクラスは6学年で、2クラスが標準サイズで、一応町の普通の学校は6年生まで2クラスで全部で12個の教室があって、12人の先生プラスアラビア語の先生とか校長とか、数人ずつ交互に学校にいるという状態です。

先生たちなんですけど、これはもう知っていらっしやる方がたくさんいらっしやると思うんですけど、鞭を持っていて、子供を鞭を使ってしつけています。先生同士はとても愛想がよく仲がよく、でも先生同士の会話は主に世間話と、女の人だったらおしゃべりに関する話という感じで教育に関して議論するという雰囲気は全く学校になく、各教室でも本当に学級報告、という日本語もちょっと当てはまらないんですけど、仕切られた空間の中で先生が好き勝手にやっているという感じで。子ども達は教科書は、私の任地の学校においてはほとんど使われていませんでした。先生が1冊の教科書を持っていて、それをただひたすら黒板に写し、子ども達はそれをただひたすらノートに写すというような状態です。

それで、私の要請、というか自分で選んだ部分もあるのですが、図工、音楽、体育といった教科については時間割の中には一応位置づけられていて、毎週同じ時間割で、それは日本でいう文科省、セネガルでいうと教育省で定められている時間割で、その時間割は一応変えることは出来ないことになっていて、その時間割の通りに行われているはずなんですけど、実際図工の授業、ほとんど見たことない。音楽、ほとんど聴いたことない。体育、ほとんど見たことないという状態でした。それで、何から始めようかなと思っていたんですけど、消去法と言ったらあれなんですけど、図工、材料が少ない。体育、暑い。じゃあ音楽かというような感じで、私は最初音楽から始めました。

フランス語が公用語なのでフランス語の歌を調べて、人から聞いたウォロフ語の歌も調べて、ピアノ一つで歌を教えました。普段セネガルの先生たちは、もちろんピアノもないですから、自分の声で、自分の知っている歌を教えます。一応歌詞は黒板に書いて説明もするんですが、子ども達の最終目標は歌を楽しく歌うことではなくて歌を暗唱することで、それが先生たちの目的でもあるので、鞭を使って音楽を教えるみたいな、下手をするとそういうことになりかねないくらい、音楽を楽しむとか音を楽しむ音楽という感じではなかったです。それをなるべく楽しいものにしようかなと思って、授業を始めました。その後実際、教員養成校で隊員同士で授業を始めるといことになる前は、私は図工や体育には手を出していませんでした。でも他の隊員の方々が図工や体育を現地の先生達に教えて、そこから私も学んで、隊員同士学んで、きっかけがつかめたなというふうに思っています。あ、こういう感じで、ここに今あるもので授業をしていけばいいんだなというようなヒントをもらって、それを任地に持って帰ってできたと思います。

大切なことは本当に隊員間の連携で、隊員間の連携も、横の連携と縦の連携があると思うんですね。縦の連携というのが前任者と後任者の繋がりだと思うんです。それで横の連携というのがもちろんその場に、セネガルに同じ時期にいる隊員同士の繋がりだと思うんです。隊員が始めたことが自分一代で終わってしまうとなったら、やはりできることはすごく限られているし、もしかすると自分一代では全く解決できないかもしれないと思った途端にそれをやめてしまうかもしれないと思うんです。そうではない方が多いかもしれないんですけど、私は自分に後任が、要請を出してもいいよ、と言われた瞬間にすごく勇気がわいてきて、あ、途中まででもやればいいんだ、というふうに思えたので、縦の連携もすごく大事だなと思います。

先ほど言いましたけれども、教員養成校の研修については未だに、もっと日取りよく改善された形で続いていて、最初に始まった 2005 年の最初のセミナーから 3 シーズン目を終わろうとしています。たまに送られてくる今の隊員からの便りを見ても、本当に前の隊員と今の隊員のやっていることが繋がっていてそれで、セネガルの協力隊の活動は進んでいるな、と現在でも感じる事が出来るので、すごくありがたいなと思っています。

今日はたくさんいいお話を聞いた後で私の話で申し訳ないのですが、もし皆さんがもっとここを聞きたいというところがありましたら、私からそのところを具体的に説明できたらいいなと思っていますので、質問を頂きたいと思っています。